

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 3072100559 |
| 法人名 | 社会福祉法人 紀成福祉会 |
| 事業所名 | グループホームサニーワン |
| 所在地 | 和歌山県日高郡日高川町初湯川213-1 (電話) 0738-57-7070 |

| | | | |
|-------|--------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 和歌山県和歌山市手平二丁目1-2 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年2月26日 | 評価確定日 | 平成21年3月17日 |

【情報提供票より】(21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成17年4月1日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 23 人 | 常勤 | 18人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.8人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 2 階建て | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 17,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷 金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 200 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 25 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 22 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 7 名 | | |
| 要介護3 | 9 名 | 要介護4 | 5 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 86.1 歳 | 最低 | 73 歳 | 最高 | 100 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 大谷診療所、日高病院、和歌山病院 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

帽子をかぶっていきそと足早に出て行かれる後を、職員が長靴を持って続く。何事かと思えば、畑仕事だとの事で、鍬を使って耕す姿は本当に現役そのもので、たくましく、頼もしい。「畑に行きたい」という希望が叶い、嬉しくて仕様がないうちが見て取れる。畑の側には東屋があり、一服しておやつを頂く。また、干し柿を作ったり、露の臺や土筆を摘んで食したりと、山間地ならではの暮らしを利用者と共に再現しながら、職員は沢山の事を学ぶと言う。開設より4年が経過する中で、運営者の高い理想が窺える恵まれたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の外部評価で指摘のあった「運営推進会議」の開催頻度及び「運営に関する家族等意見の反映」については、今年度においては1月、3月(予定)の実施のみで、改善には至っていない。今後は家族代表委員の構成について検討する等開催し易い体制とし、家族等の意見表出の機会作りについても共に引き続き取り組みを期待する項目として掲げる事となった。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価については、ユニット会議等で話し合い、各管理者がまとめあげた。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は不定期ではあるが地区及び家族の代表・民生委員・行政等が出席して行っており、行事や取り組みについての現状を報告する中で、警察派出所駐在員も助言者として出席して頂き、利用者が一人で外出された場合の対応等について話し合いの機会を持った。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の意見等は常に気軽に申し出て頂ける様にしており、ご意見箱も設置しているが、余り意見等は出されていない。出された意見等については運営に反映させている。 |
| 重点項目⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 職員と共に地域の清掃や草引きを月1回行っている。また、地域のイベントには積極的に参加する中で、ボランティアグループや中学生ボランティアスクールの訪問・保育園児とのミニ運動会・高校福祉過程の生徒と共にハーブの栽培等行っている。法人の行事や地域交流ホールでの催し等においても地域の方々との交流が図れる機会となっている。 |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 家族的な雰囲気での生活を目標として、地域との関わりを大切にしながら、地域の中でその人らしい生活を支えていくという事業所独自の理念を掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者・職員共に機会ある毎に理念の共有を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 職員と共に地域の清掃や草引きを月1回行っている。また、地域のイベントには積極的に参加する中で、ボランティアグループや中学生ボランティアスクールの訪問・保育園児とのミニ運動会・高校福祉課程の生徒と共にハーブの栽培なども行っている。法人の夏祭り等行事・地域交流ホールでの催し等においても地域の方々との交流の機会となっている。 | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者・職員共に自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、この評価の機会を活かして改善に取り組んでいこうとの姿勢が窺える。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は不定期ではあるが地区及び家族の代表、民生委員、行政等が出席して行っており、行事や取り組みについての現状を報告する中で、警察派出所駐在員も助言者として出席して頂き、利用者が一人で外出された場合の対応等について話し合いの機会を持った。 | ○ | 家族代表として委員委嘱する形をとっているが、利用者の退所に伴い交代して引き受けて頂ける方がおられず、開催が遅くなってしまったが、家族の参加を広く募って開催する等、定期的に行える様工夫される事が望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 研修情報を貰って申し込んだり、運営に関する質問など必要に応じて町担当者に相談しており、協力を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 暮らしぶりについては、毎月、各担当職員が個別に便りを書き、写真と共に報告する形をとっており、金銭管理や職員の異動等についての報告も共に郵送している。健康状態等については、随時電話や面会時等に報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の意見等は常に気軽に申し出て頂ける様にしており、ご意見箱も設置しているが、余り意見等は出されていない。出された意見等については運営に反映させている。 | ○ | 家族等から意見・不満・苦情を出して貰える様に、アンケートの実施や意見交換の場を持つ等、さらに積極的にその機会作りに取り組まれる事が望まれる。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動を必要最小限に抑える等配慮されている。離職があった場合は、なるべく明るく、さりげなく話題を変える等心がけ、異動時は顔を見せて貰う等利用者へのダメージを防ぐ配慮がされている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 認知症介護実践者研修やリーダー研修の受講を積極的に勧めており、他の研修についても職員は負担なく参加できている。また法人の内部研修も定期的に行われており、新入職員についても法人で作成している採用時研修のマニュアルに則って管理者を中心に指導する等、段階的に育成できる体制が整っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会に加入しており、研修や交流、相互実習に取り組む、サービスの質の向上に活かしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | サービス利用開始にあたっては、家族と相談しながら見学して貰ったり、母体法人でショートステイを利用して宿泊体験をして貰う等一人ひとりに合った対応をしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 漬物・保存食のつくり方や野菜等の栽培については特に職員が教わる場面が多く、生き生きと力を発揮し作業をして頂く中で、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の会話の中で、本人の意向の把握に努めている。自分の思いを伝え難い方についても出来るだけその意向を伺うようにしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | センター方式のアセスメント用紙に家族や本人から聴取した要望や情報を書き込み、必要な関係者の意見も取り入れ、ケア会議等で検討の上、それらを反映させた介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の見直しについては、担当職員がまとめたケース記録を参考にして、ユニット会議で話し合っている。入退院等本人の状態変化については、医師・看護師・家族等が同席の上でカンファレンスを開催して現状に即した新たな計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制の契約を結んでおり、十分な医療体制が整えられている。また、本人や家族の状況に応じて医療機関の受診や入退院の送迎等の移送サービス、野球観戦・昔馴染みの地域や職場・自宅・ふるさとの祭り等一人ひとりの希望に沿った特別な外出支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医による週1回の往診を受けている。看護師も職員として配置しており、連携を図る中で適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 契約時に文書により重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を説明している。本人の状態の変化に応じて家族や主治医等と繰り返し話し合い、方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は利用者を人生の先輩として尊重しており、言葉遣いや対応などからもプライバシーを損ねる言動は見られない。記録等個人情報の取り扱いについても適切になされている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切に、職員も十分にゆとりを持って接しており、本人の意向を最優先に支援が行われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理や配膳、片付けなど可能な部分で力を発揮して貰っている。地理的に日々の買い物に困難なため、食材はカタログを見ながら各地の名産等を注文し楽しんでいる。また、菜園で収穫した野菜を食したり、巻き寿司やおはぎなどは皆でテーブルを囲んで作る等楽しみなものになっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとりの希望に合わせて毎日入浴出来るようになっており、職員との会話を楽しみながら入っている。また、ホーム内の風呂だけでなく、法人内の温泉浴も楽しむことが出来る。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 調理等家事や菜園での作業、野菜の収穫など、一人ひとりが張り合いや喜びを持てる様、適切な支援がなされている。また、「喫茶みるく」で季節に合ったメニューが提供されていたり、東屋でお茶のひとときを過ごしたりと、趣向をこらした楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 野球観戦や紅葉狩り、花見、買い物など年間を通して車での外出も多く、園庭は散歩や外気浴ができる環境となっており、日常的に戸外で過ごす時間が確保されている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室は自由に入出入り出来るが、ユニットの玄関は施錠している。近くにダム湖があり、山も深い等リスクも高いため、家族の同意を得てのセキュリティ対応となっている。管理者・職員共にその弊害を十分に理解しており外出希望時は直ぐに職員が付き添って出かける等閉塞感を感じさせないケアを心がけている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年3回法人全体で消防署指導の下、避難訓練を実施している。また、周辺地域との消防・防災対策相互協力協定書を交わして体制を整えている。 | ○ | 夜勤体制を想定した避難訓練は実施しているが、さらに近隣者の協力が得られるよう働きかけ、昼夜を問わず利用者が確実に避難できるよう対策を講じることが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量や水分摂取量は記録しており、一日を通じて必要量を確保出来る様支援している。また、栄養バランスについても大まかに把握した上で毎月の体重測定値を目安に過不足なく確保出来る様支援している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関にはベンチが置かれてあり、夫々のユニットにもゆったりくつろげる様、ソファーが置かれている。また、内裏雛や季節の花、春を愛でる童謡の歌詞など季節感を採り入れて、居心地良く過ごせる様な工夫がなされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には使い慣れたものを持参して頂くように勧めしており、好みのもや写真等を飾って、居心地良く過ごせるような工夫がされている。 | | |